

## 北九州市学校給食審議会議事概要

1 会議名 令和元年度 第2回北九州市学校給食審議会

2 議 題 給食費の改定（案）について

3 開催日時 令和元年8月28日（水）14:00～15:30

4 開催場所 小倉北区役所庁舎東棟8階 812会議室

5 出席者氏名

[委員]（12名：順不同、敬称略）

村上さとこ、天本祐輔、加塩大輔、白水京子、貴志倫子、安倍ちか  
脇文子、清水良江、遠藤誠一、佐藤文俊、倉本京子、淵上瑞恵

[事務局]（7名）

教育次長、学校支援部長、学校保健課長、ほか関係職員

6 議事要旨

### ◆「給食費の改定（案）」について事務局より説明。

- ◇委 員 ・給食費改定案1、案2とあるが、どちらにしても、現行より副食のバラエティに富み、子どもたちが非常に喜ぶのではないかと思う。学童やPTA関係者に話を聞くと、学校によって差はあるものの、副食が足りなくて、欠席者分の副食を取り合いになる学校もあると聞く。そういうことを考えると、副食のバラエティが富むことは子どもたちにとってプラスになるのではないか。是非、給食費の改定の方向で進めてほしい。
- ◇委 員 ・私は、案1で設定したほうがいいのではないかと思う。案2のシミュレーションでは、計算した給食費月額を端数を切り捨てることで、改定後基準額の月額を下回っているの、どうかと思う。  
・食材についても、デザートや果物のビタミン、ミネラル等栄養素の摂取に繋がるので、食材が豊かになる案1が良いと思う。
- ◇委 員 ・子どもたちに良いものを食べさせたいという思いはあるが、保護者の負担を抑えることや、給食費徴収の難しさを考えると、中学校の現行給食費が4,900円で、これから一気に600円上げるという案1より、100円でも安い500円改定の案2の方で行けたら良いと思う。
- ◇委 員 ・小学校の場合だと、6学年の中に兄弟関係にある児童の保護者がいることがある。案1と案2の月額の差は100円だが、年間にすると、1人当たり

1, 100円の差ができ、2人、3人と兄弟がいると、2倍、3倍と負担の差が大きくなる。金額的には案2の方がいいのではないかと思います。案1、案2それぞれの改定を想定した献立の資料を見ても、それほど違うようには見えないし、案2でも今より十分良くなっているのではないかと感じる。

◇委員 ・案2では、案1より給食費改定月額が100円減額されている分、案1の改定を想定した献立で利用できる黄桃やヨーグルト、メロンなどが案2の献立では使用できなくなっている。100円の差でこれらの食材が使用できるようになるのであれば、また、子どもたちが満足して笑顔になるのであれば、案1と案2の月額の差である100円は安いものではないか。

◇委員 ・給食費はたびたび値上げするものではないと思うので、改定直後はきついと思うかもしれないが、子どもたちのために、最初は我慢していただいて、良いものを子どもたちへ食べさせてあげたいと考えたら案1でいいと思う。  
・中学校の給食は小学校で作っているが、例えば、同じカレーライスを調理するにしても小学校で使う肉と中学校で使う肉の種類が違うようなことはあるのか。

◆事務局 ・同じ食材で調理をするということを基本にしている。一緒に回転釜で煮込んだり、炒めたりするものは、小学校で鶏肉を使えば、中学校も鶏肉となる。調理で使用する食材は同じである。

◇委員 ・例えば、小学校の子ども2人と中学校の子ども1人だと、現状で支払う給食費月額は12,700円となる。これを案1の考え方に当てはめると、月額14,300円となり、月に1,600円の値上げとなる。消費税増税も控えており、家計も厳しくなってくるような状況で、できれば案2で対応していただきたいと考える。中学校の月に600円値上げというのは、インパクトがある。  
・他の政令市の状況をみると、案1で値上げした場合、給食費月額の昇順の順位だと、小学校で概ね真ん中くらい、中学校で若干上位にあたることになるが、何とか政令市の平均くらいで、収めてもらえると保護者としても非常に助かると思う。  
・案2の献立では、案1の献立からメロンが使用できなくなるとのことだが、メロンは高価なので、他の果物に替えて対応するということはできないのか。

◆事務局 ・今までも、給食費捻出のため、安い食材で栄養価が満たされるように献立を作成してきている。例えばこの時期なら、メロンを安価なスイカに替えるというような形になるが、それぞれの果物にしかない栄養素があるので、教育委員会としては、様々な食材を提供していきたいと考えている。

◇委員 ・保護者に対して、給食費値上げについてアンケートなどを取ることは可能なのか。

◆事務局 ・前回の審議会でも、子どもたち向けのアンケートを取ってはどうかというご意見をいただいている。現在、保護者や子ども向けのアンケートを検討し

ており、「どのようなものを食べたいか」や、「どれくらいの額であれば許容できるか」という項目のアンケートを、ある程度抽出した学校を対象に実施し、次回、10月に開催予定の第3回目の審議会で結果をお示ししたいと考えている。

- ◇委員 ・ そのアンケートの中には、具体的な改定額は出すのか。
- ◆事務局 ・ まだ、審議会の中で、議論していただいている最中のため、具体的な額というより、おおよその程度の額というような形でアンケートを取り、ご回答いただければと考えている。
- ◇委員 ・ 過去の給食費改定の推移を見ると、改定期期の幅が、空いていたり、短かったり、色々あるが、概ね3年で改定するという考え方でよろしいか。
- ◆事務局 ・ 改定の指針に、学校給食費の見直しについては、改定後、3年を目途に行うことが望ましいとある。前回改定時から現在まで、改定の時期が6年間空いているのは、平成26年度の給食費改定の際に、消費税5%から8%に上がったが、増税3%分を転嫁しておらず、平成27年10月に8%から10%に上がる予定があったため、社会的な状況等の変化を見ているうちに6年空いたという状況がある。
- 今回、例えば、令和元年10月に消費税が上がれば、また3年後とかに、この審議会で給食費改定の検討を図っていただくのは、十分にあり得ることであると思う。
- ◇委員 ・ そういうことであれば、値上げするのも徐々にしていくということでもいいのではないか。
- ◇委員 ・ 例えば、この給食費改定のシミュレーションで、令和2年度に入って、食材の価格がこの試案どおりに動くかと言え、それは分からないと思う。やはり、概ね3年ごとに見直していくことで、考えていった方がいいのではないか。
- ・ 資料の中で、モデルとして写真で掲載されている献立は、高学年の量なのか。
- ◆事務局 ・ 小学校中学年の量である。低学年から高学年では、2割ずつ給食の量に差をつけているため、写真の献立の量から、低学年は少なくなり、高学年は多くなる。ただし、牛乳は小学校1年生から中学校3年生まで200mlを1本提供しているというように、同じ分量のものもある。
- ◇委員 ・ ご質問・ご意見等、一応出尽くしたものと思う。案1・案2はまた事務局で検討して頂き、第3回の審議会で、また提出していただきたい。

事務局：  
北九州市教育委員会事務局学校支援部学校保健課  
TEL 093-582-2381